

NCPタイムズ

Nihon CellonPack Times

発行所
日本セロンパック株式会社
大阪本社
〒540-0022
大阪市中央区糸屋町1-4-7
TEL.06-6941-8851
FAX.06-6943-8855

NCP
第8号

2012.10.15発行

Times

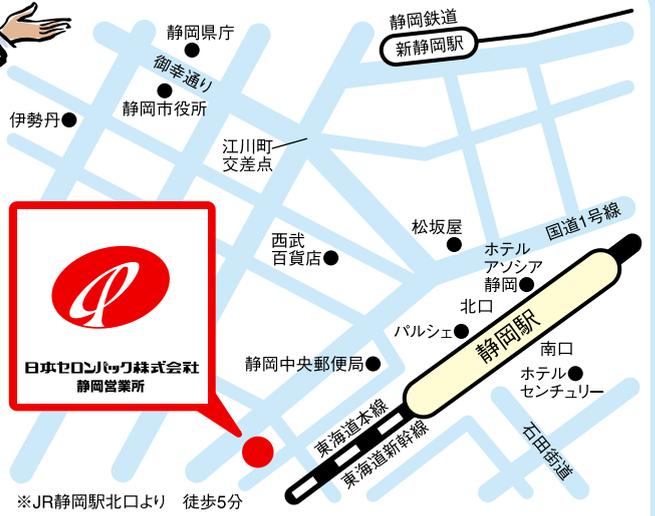
トピックス1,2,3 TOPIX



静岡営業所移転のご案内

平成24年8月15日より静岡営業所を静岡駅前に移転致しました。以前は静岡駅より車で20分程度掛かり、得意先様をはじめ仕入先様にもご足労をお掛けしておりましたが、今回駅から徒歩10分の圏内に移転致しました。スタッフ一同心機一転頑張っていきたいと思っておりますので、ぜひ静岡にお越しの際には、お気軽にお寄り下さいませ。(静岡営業所・野田 修)

静岡駅から徒歩で
アクセス可能になりました。



※JR静岡駅北口より 徒歩5分

日本セロンパック株式会社 静岡営業所

〒420-0851
静岡市葵区黒金町11-7 三井生命静岡駅前ビル8階-J室
TEL 054-201-9252 FAX 054-255-8677

海外研修を終えて

平成24年9月8日より約1週間、マレーシア・タイでの海外研修に参加しました。マレーシアでは協力工場の視察に同行し、タイでは弊社得意先現地法人への商談に同行しました。まず、マレーシアの協力工場は、設備面では国内と同等レベルで、QC・品質管理体制もISO9001を取得されており、設備面・管理体制は国内工場と同レベルだと感じました。しかし、作業者の認識力・入室管理・衛生面・5S(整理整頓)は、まだまだ国内と比べると差があるように思います。例えば入室管理にしてもせっかく図解で表示しているのに、その作業をする意味を本当に理解できているのか?印刷機・ラミネート機など、機械自体は整理整頓してるのに、周りや、裏に回ると余計な物があるなど、非常にもったいないと思いました。今後弊社から作業員への明確な指示・指導や意識改革を指導することによりもっと良い工場になると感じました。

タイでは現地法人の方々への商談に同行しました。現地での包装材料の悩みはシール性が悪い・開封製が悪いなど国内と同じような悩みでした。国内とまったく違う悩みは作業員の国民性・人間性には相当悩まれているようです。彼らに理解してもらうには相当努力されているように思いました。逆にどのように指導しているか教えればよいのではとも感じました。私自身、研修に参加するまでは包装材料は国内生産が絶対と思っておりましたが研修を終えて、海外生産も十分に検討できると感じました。まだまだ改善指導すべき部分はありますが、取引先の要望・ニーズに対応できるようになれば研修での経験・情報を今後の営業活動に取入れ活動してまいりたいと思います。

(営業部・上路 喜弘)



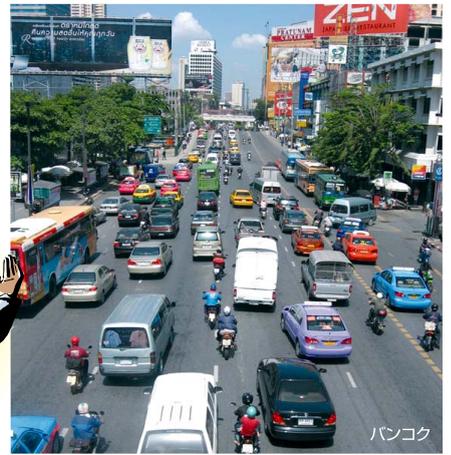
海外フィルムについて

弊社の海外フィルムの近況についてご報告させていただきます。前回、NCPタイムズ4号でも述べていましたPETフィルム及びVMCPPIは引き続き継続購入しております。アルミ箔についてはロングランテストの結果、2012年1月から正式の購入を開始致しました。アルミ箔は酸化する傾向がありますので在庫調整及び納期の対応が現在課題となっております。VMPETの輸入は、品質を改良したものでお客様の協力もあり再チャレンジしたところ一部の商品にて採用になり現在購入することになりました。最近のもっとも新しい情報としてましてはPETフィルムの薄肉タイプ9μ(市場では12μがもっとも使用されております)と乳白CPPのテストを現在、検討中です。まだまだ、いろいろと問題点はありますが使用出来るものと出来ないものを見極め海外フィルムの使用にトライして行きたいと思っております。(生産部・芝 孝司)



タイ/バンコクに現地法人を設立準備中

今年4月に設立いたしました中国/上海の「勢容商貿(上海)有限公司」に続きまして、2013年1月の営業開始を目指し、タイ/バンコクに現地法人を設立準備中です。海外事業部/光富部長が中心となり、アセアンに展開されている現地日系企業等の軟包材ニーズ対応強化や日本国内向け海外製品の供給態勢を強化したいと考えています。その為にも本社生産部と協働で、マレーシア協力工場の生産態勢や品質保証態勢の充実を目指しています。また現地フィルムメーカーからの調達活動も積極的に行い、アセアンからの海外フィルム供給態勢を構築したいと思います。是非とも国内営業担当にご相談ください。弊社国内外の役職員が一丸となり、最適な軟包材の供給態勢を構築していく所存です。(経営企画部・土橋 秀行)



大手食品メーカーの弊社デザイン採用事例

弊社デザイン室では現在4人体制で業務を行っております。また、外部より経験豊富な顧問ディレクターを迎えデザイン強化やクオリティ向上に努めています。昨年10月、大手食品メーカーのA社留型商品のデザイン製作に参加させて頂きました。顧問ディレクターの指導及び各デザイナーの頑張りにより弊社のデザインが採用され商品化する事となりました。その後もNB商品のデザイン、B社留型商品のデザインと続けて弊社のデザインが採用され評価していただく事となりました。最近、各メーカーコンペ形式でのデザイン依頼が多くデザイン力はもとよりメーカー特性の理解、競合他社の分析等さまざまな能力が必要とされます。また、商品があふれている中で各メーカーの要望する依頼内容も複雑になりピンポイントな表現力を求められるケースもあります。今回のような事例を多く作る事で実績を積み、デザインの幅を広げより良いものを提供できるよう努めております。ぜひ、一度弊社デザイン室をお試しください。(デザイン室・山田 倫正)



『痩せ形の「ぽっこりお腹」は肥満より危険だ。』

食欲の秋というのにこんな言葉を目にして私は怖気づいてしまった。今や社会問題にもなっている「メタボ」とは真逆の痩せ形が対象ということに衝撃を受けるとともに、自分に当てはまるのではないかという恐怖心を抱いたからだ。しかし、食事や運動で改善されるとは言われているが実際に危険な状態に晒されている実感がなければなかなか自分に厳しくできなのが正直なところである。さらに人間は忘れやすい生き物と言われるように、何もせずにいると時間が経つにつれ恐怖だと感じていたことさえ覚えていないという事態に陥ってしまう。何に対してもだが、いくら難題を突き付けられても出来れば楽に乗り越えたいと思うのが本能。現実と向き合い本能とうまく付き合っていくことが人生最大のテーマの一つなのだろうか。取り返しのつかないことにならないうちに思ったことは即行動。これに尽きるのではないかと改めて考えてしまった。(総務人事部・濱中 奈央)